

平成28年度第1回 精神障害者地域移行推進専門部会

日時 平成28年7月27日(水)18時～20時

本庁舎5階大会議室

出席者：富沢部会長、寺田副部会長、岡田委員、奥山委員、勝嶋委員、亀山委員、
木村(潔)委員、木村(章)委員、金田一委員、桑田委員、國分委員、酒井委員、
多勢委員、平田委員、三好委員、谷下田委員

1 障害福祉課長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。今年度第1回目の部会となります。今年度も宜しく願い致します。

4月14日に発生した熊本地震においては、災害派遣精神医療チーム（DPAT）を4月16日から5月19日にかけて8チームを派遣しました。御協力をいただいた医療機関や関係者の方々には、お礼申し上げます。ありがとうございました。

昨日、神奈川県内の相模原市内で指定障害者支援施設において、多数の入所者が殺傷されるという痛ましい事件が発生しました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、関係された方々におかれましては、お見舞い申し上げます。本県としましては、社会福祉施設の安全の体制の確保につきまして、施設の出入口の施錠、見守りの強化や不審者に対する注意喚起等について、改めて点検を行いまして、防犯体制に万全を期すよう、施設長あてに通知をしたところでございます。国においても同様の通知を発出しており、改めてお知らせする予定です。

本日は第五次千葉県障害者計画の進捗状況と、精神障害者の地域移行・地域定着協力病院の認定事業の報告をさせていただきます。また、平成29年度の重点事業案、精神障害者の地域移行・地域定着に関する人材育成について御議論をいただく予定です。計画に盛り込まれた施策につきまして、引き続き検討いただきたいと思いますので、是非、御忌憚のない意見を宜しく願い致します。

2 議題

(1) 報告事項

①第五次千葉県計画の進捗状況について

(事務局から説明)

(富沢部会長)

27年度は計画の初年度となります。進捗状況について、御意見・御質問等あれば宜しく申し上げます。

(木村潔委員)

資料2の2-(2)にあるピアサポーターについての質問。養成講座をやって、就労できた方の人数は。養成を様々な所でやっても、実際の就労の道がないという状況がある。それをどうするか、が課題。

(事務局)

ピアサポート専門員養成研修の修了者は21名であった。追跡調査としてアンケートを実施した。推薦機関等と雇用関係がなかった方は21名うち5名であった。その方がどうなったのか、我々としても気になるところであり、アンケートで回答を求めた。返事があるのは1件のみ。その方は就労に繋がっている、とのこと。4名は回答がいただけていないので、どうなっているか把握できていない状況。

(木村潔委員)

21名のうち、16名は既に就労していた、とのこと。どういう所か。

(事務局)

就労支援の事業所が一番多い。地域活動支援センターや医療機関の方もいた。

(木村潔委員)

これから就労したい、という方が2回目に多くなると思われる。その方々の道をどう開くかが課題と思う。見通しやお考えを聞かせていただきたい。

(事務局)

昨年度に関係していただいた事業者様と結果報告会を実施し、意見をいただいた。座学の研修と併せて、3週間に渡る実習を行った。実習をしていただいた機関の方から費用負担、確保等も困難な状態であり、御批判もいただいている状況。今後については見直しが必要。実施前の周知や募集についても、検討が必要。また、もう一つ必要なのは、受講者の決定について。昨年度は12名程度の定員で実施を予定していたが、申し込みは多数だった。受講決定は28名にしている。修了者は21名で、7名が修了できなかった、という実態があり、職業準備性などを踏まえるなどし、受講者の決定が必要と考えている。

(木村潔委員)

ピアサポーターの養成も大切と思うが、就労の方も是非宜しくお願ひしたい。

(桑田委員)

ピアサポート専門員養成研修を受講した方で、正式に就職が決まったという連絡を受けた。医療機関のデイケアに就職が決まった。障害者就業・生活支援センターに関わっていること、と養成研修の要件にあった。

(木村章委員)

前年度、木村病院からも受講した。その後、パートで雇用し、7月から本採用になった。ただ、就労は大切だが、次のサポーターをどこで、どう養成するのか、研修の予算がなくなっている。続けて協力する流れはあったが、殆ど持ち出しとなる。そういう協力は難しい。

(富沢部会長)

予算措置は暫くあるが、そのうち受講料を取るという形を予定していたはず。予算はもうなくなるのか？

(事務局)

昨年度と同様の予算は確保している。木村委員がおっしゃたように、実習機関から多大なる御協力のできた結果、という実態がある。

(國分委員)

資料2の2-(1)-⑭の普及啓発について、心の健康フェアや心のふれあいフェスティバルが記載してある。精神障害者家族会連合会で行っている障害者週間がある。これは対象になっていないということか？

(古屋課長)

心の健康フェアや心のふれあいフェスティバルは県の主催で代表格のもの。協力して実施していただいたものも含まれる。

(國分委員)

この中に入れさせていただくと、家族会の意識も変わってくる。宜しく願いたい。

(木村潔委員)

資料2の2-(1)-⑧について、今後、厚生労働省は、障害がある高齢の方のグループホームを施策の中心に置く、と言っているのかどうか。これまでの通りなのか。今後問題が出て来て、居住福祉を担っている事業所は皆悩んでいると思う。

(障害福祉課長)

厚生労働省の方針ではないが、入所・地域生活支援専門部会で、高齢や、重複して障害を持たれている方のグループホームの整備が必要、ということで検討していくと計画にも記載している。こういった形で実現していくか、議論しているところ。国でも同様の議論がある。今後、総合支援法の改正がある。報酬の改定もあり、それに合わせて対応していく。

(富沢部会長)

資料3にある遠隔地退院支援事業の実績だが、平成26年度は10名に対し支援し、5名が退院と報告があった。27年度の実績が3名となっている。急ブレーキがかかり、愕然としている。検討が必要とあるが、なぜこの数なのか、きちんと整理が必要。必要とされている制度なのか、評価をどう考えるか。

(事務局)

3名うち2名は退院したと記憶している。

(富沢部会長)

急減した分析はあるか？

(事務局)

部会でも報告等をさせていただき、御意見もいただいているところ。圏域連携コーディネーターの方に協力をいただき、各圏域で実施している協議会においても当該事業について周知をしていただいているが、流れが複雑で、理解がまだ十分ではない部分がある、という印象はある。ただ、制度に対する意見もあり、改善出来る余地はあるか、とも考える。どの位の方が対象者として上がってきて、実際に支援ができたのか、詳細な分析が必要、という意見もいただいた。病院としては、遠隔地から「地元の病院に空床がない」等の理由により、遠方から入院を頼まれて受けるが、退院をする時、遠方であるためにより手間がかかる、という意見や、当該事業は1年以上入院している方の支援としているが、救急システムと連動するのなどし、もっと早い段階からの介入が必要、という意見もある。他、当該制度はサービスの報酬とは別に支給しており、サービスの報酬に加算した方が良いのは、という意見もあり、国に働きかけるという方法もある。

(木村潔委員)

印旛圏域から迎えたが、この制度を使っていない。安房圏域からも相談がある。早く退院させたいため、制度を使っている余裕がない。支援はしているが、カウントされていない。

(富沢部会長)

数だけでは測れないと思うが、事業の数にはなっていないが、退院させよう、という機運は増しているか。

(木村潔委員)

印旛の周辺にグループホームの空きがなく、受け入れた。転院ではなく、転院を経ずに直に退院している。圏域外の病院から遠方のグループホームに退院し、その後、地元である県外に帰ることもある。

(酒井委員)

圏域外の支援は元々あった。サービスを使ったお金では、この制度は使えない。今月から地域移行をやろう、となった所にコーディネーターが動いた部分にサービスが入ると、使えない。実際にやっているが、対象とならないことが多い。八王子や、土浦へも行っている。この形に載せるのは難しい。サービスの対象になっていない時でも、難しくならなかった。改善し、以前より使いやすくなっている。圏域外に入院して長くなっている人はいる。

(三好委員)

制度が複雑なので、個別支援の地域移行で支援をしているのが実情。スピーディに支援ができる。

(木村潔委員)

高齢者のグループホームの件に関連するが、殆ど50代や60代で長期入院だった方。高齢化の問題。別の視点から県のグループホームをどうするか。認知症のグループホームは閉鎖空間をつくらないとできない。65歳の問題もある。

②千葉県精神障害者地域移行・地域定着協力病院認定事業の進捗について

(事務局から説明)

(富沢部会長)

御意見等ありましたらお願いします。

(三好委員)

千葉市においては、要件にある地域移行支援協議会がないため、「等」をつけていただという経緯がある。千葉市では、今年度から長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業を行うことになった。その中で地域移行推進連携会議ができた。千葉市にお

いても、そういった会議ができ、病院も参加してくださることとなった。

(富沢部会長)

県の動きがもし触媒になっていると思うと嬉しい。認定病院の制度は周知することで、目標の18病院の認定に向けた努力をお願いしたい。

(寺田副部会長)

現在申請がある病院に対する、認定病院の順番の付け方は。公表の際に、モチベーションが上がる。

(障害福祉課長)

まとめて何件か申請がきているため、公表はまとめて行う予定。順番は公平性が担保出来るようにと考えている。公表する際は、病院のモチベーションが上がるようにできれば、と思う。

(富沢部会長)

心の健康フェアで周知するのは良い。一般参加者もいる。

(2) 審議事項

①平成29年度重点事業(案)について

(事務局から説明)

(富沢部会長)

御意見や御質問をお願いします。

(木村潔委員)

同じことを繰り返しているが、高齢者のグループホームの問題、その文言は入らないか。

(障害福祉課)

精神障害のある人の地域移行となるので、精神障害のグループホームでかつ高齢であるという課題で整理をするのか、全般的に知的障害も含めて高齢の課題とするのか、表現は違ってくる。グループホームの整備という点では、別の部会で議論をする機会もあり、そちらに盛り込む方法もある。委員の方々から伺う必要がある。

(木村潔委員)

いわゆる、この国の地域移行とまさに絡む。知的の方も。

(障害福祉課長)

全般的な話であるため、整理をする。

(木村章委員)

この予算は県予算である。千葉市はまた別である。グループホームがどうしても一杯で、見つけていく上で、問題がある。量の問題もある。市が頑張ることかもしれないが、県がどんどん進んでいるような気がする。千葉市も頑張っていると思うが。

(三好委員)

整備費用などの補助金は千葉市もある。申請する所がなかった。頑張りたいと思っている。

(寺田副部長)

この資金を本当に県や市が活用して積極的にグループホームを推進するかどうか、が大切。予算が計上してあっても、基準の運用でどうにでもなるような事柄について、抑制に働いている所が沢山あり、使いきれない。計画は民間が手を上げなければ何も進まない。希望を持っている民間事業者に後押しをするようなスタンスが非常に大切。やる気を削ぐような指導がされている。

(木村潔委員)

茂原市で高齢者のため、廊下の幅が広い所を作ろうとすると、「もう地域の計画が100%になっているからできません」という話があるのか、ないのか。やる気のある事業所が一生懸命やらないと進まない。100%だからできない、となると作れなくなり、予算が余る。

(酒井委員)

グループホームを作ろうと思い、長いこと取り組んだが、出来なくなった経緯もある。作るのが大変。設置の要件等、本当に大変。作った後も、維持が大変。グループホームをやめよう、と言う所も出る位。監査の指摘のみでなく、グループホーム自体が障害の区分によって、左右される。人員を増やさないといけないことも。予算があっても進まない面もある。作っていきこう、というモチベーションが上がると良い。特に精神は年齢が高いこともあるが、若い人で通過点として出て行くこともある。それでも足りない。病院からの条件で「グループホームじゃないと許さない」と医師が強固に言う場合がある。グループホームでない方は良いのでは、と思い「私達が地域でみます」と言っても難しかった。家族より医師の方が強固。もっとグループホームが増えたら良い。

(寺田副部長)

精神保健福祉推進班と施設指導班がどれだけ連携できるか。ここで「やりましょう」という話になっても、施設指導の方でブレーキを踏む。不愉快な発言をされる。施設指導班はかなり上から目線。お前達に認可してやる、お前達は事業者だろう、という視線で物を言う。社会福祉施設ができた時は本当に連携し、丁寧に作ってきた。我々を業者扱いしており、猛省を促したい。

(桑田委員)

グループホーム支援ワーカーとして同様に感じ、運営に関しても苦勞もしているところ。地元で運営が円滑に進むように、ワーカー自身の質の向上や、不動産業者や建ててくれるオーナーの方、消防など、障害福祉課ではない課とも連携も深め、ネットワークを広げている。温かく見守っていただければ。

(亀山委員)

地域移行・地域定着に関する人材育成とある。当事者やピアサポーターは入るのか？

(事務局)

この後、資料6に基づいて詳しく説明させていただく。当事者の方を考えた上での人材育成としている。

(岡田委員)

グループホームは色々ある。県で開設セミナーがあったが、参加者が少なかったよう。安房圏域では、精神障害の方のグループホームは多い方。人材の部分として、やってくれる人の確保、質の向上も必要。誰でもいい、という問題ではない。宿泊型自立訓練施設もやっており、地域移行を利用する時に使っている。宿泊型自立訓練施設を経過して、グループホームや単身生活に移行している。グループホームも色々な種類があると、地域移行も進むのでは。グループホームがない時は、アパート生活を送る人が多かった。障害が重かった人も出るしかなく、宿泊型自立訓練施設を出た後は、アパートを使っていた。職員の意識の向上にも繋がるが、何となく、グループホームがあって、それでいいのかな、となっているのかな、と感じる時がある。利用者の方にとっても選べて、次に繋がっていくようなグループホームも必要かと思う。色々な種類のグループホームがあると、利用者の方にとっても良いのか、と思う。

(木村章委員)

地域移行をするにあたり、単身アパートをすすめてきた。精神保健福祉士が増えてくるにつれ、地域移行の対象者が変わり、今はどちらかという、グループホーム中心にな

った。何とか、アパートに戻ろう、初心に帰ろう、としているところ。医師が「グループホームでないと退院させないよ」と言っているところは、医師の不安を取り除くために、ワンクッション、グループホームにいて、それから、アパートに移っていく、というようなのは理想的な形。アパートに行ける人は何とかそうするが、そうでない場合の一つは、利用者の安心感。それから医者の方の安心感。おそらく、再入院してくることを怖がる。多様化したグループホームは必要。共感している。

(木村潔委員)

グループホームだが、当法人には7棟で20数部屋ある。小さいタイプも作っている。アパート型も作っている。放っておくと若い方は去って違う所に行く。10年間で既に40名弱退所した。残る方は高齢の方。若い人の殆どは終の住処とっていないように思う。

(富沢部会長)

グループホームの御意見が様々出てきたが、地域移行をすすめるには、住める場所がないことには難しい、とずっと議論している。大きいポイントである。どうも話を聞いているとやる気のある事業者の方を削ぐような実際がある。聞き捨てならない。

(障害福祉課長)

施設は限られた予算を配分するところである。細かく事業の内容を精査する状況がある。事業者の方に不快な気持ちをさせてしまい、申し訳ない。精神のグループホームは重要な部分。整備費の補助が十分かというところ、県の補助金でグループホームの整備を全て賄えないので、足りない所、足りない地域となる。他の障害や日中活動の予算もある。その中の予算で、限られたところになってしまう。特に足りていない所は、応援していきたい。引き続き予算の執行する面で、補助について対応していきたい。グループホームの役割が、精神は異なる部分があるのでは、とあり、検討課題とさせていただきまして、整備費というよりは、どういう形で一人暮らしをするか。

(寺田副部会長)

基準の読み方が一つある。一区画のうちには10人。前は、道路に面して区画を割れば良く、そこに塀を作って運用されてきた。ところが、ごく最近、相談に行ったところ、「100人だって可能でしょ」と。その論法だと、全てがその可能性がある。相談に言ったら「ここをこうしたら何とかなる」ではなく、「こうだからできない」というやりとり。障害者を受け入れる時の姿勢と同じ。まず障害者が入居を希望してきた時、「この部分があるから駄目です」とするのか、「私達がこの人達にどのように受け入れる工夫ができるだろうか」とするのか。県でまず駄目な部分を探してブレーキをしている。この部分が上から目

線だと言っている。何とか事業所を作りたい、と相談にきたら、「この計画ではこの部分が問題になるけれども、こういう工夫したら何とかなるよ」といったスタンスが必要。事業者は地元の説明等でギリギリのところをやっている。県や保健所の相談員も説明会の雰囲気を実際に見てみる姿勢も必要。

(富沢部会長)

グループホームの問題は引き続き最重要課題として協力を。

(寺田副部会長)

施設指導班も必要に応じて参加を。

(木村潔委員)

グループホームを作る時、中古の建物を利用できる制度を。費用も3分の1や4分の1で済む。規制緩和を。グループホームを作っても空いている。足りない、という話があるが、病院から中々退院者がいない。

(富沢部会長)

協力して、継続していきたい。重点事業について御提案や御質問は。

(桑田委員)

千葉県療法士会として派遣されている。DPAT についてお聞きしたい。作業療法士会のDRATがある。リハビリテーションのRATであり、災害派遣チーム等がある。精神科領域に作業療法のニーズがある。DPATの共同訓練の時にDRATについても連携等を入れていただければ。

②精神障害者の地域移行・地域定着に関する人材育成について

(事務局から説明)

(富沢部会長)

非常にツボを押さえた有難い御提案と思う。御意見や御質問を。

(亀山委員)

検討チームに県社会福祉協議会は参加するか。就労を考えると、交流を深めたらいいと思う。

(事務局)

今のところ想定はしていない。ここに携わるピアサポーターの方は、すぐに就労を目指す方ばかりではないと思われる。就労を希望する方がいる場合は、関係機関と連携を図ったり、検討チームに入っていただきたいと考える。

(木村章委員)

具体的で良い。県は遠慮されていると思う。千葉県精神科病院協会の病院は41あり、未加入は数か所ある。この事業を進めていく際には、病院での説明会において、スタッフが理解することも大切だが、経営者が、「やっても大丈夫だよ」というような感覚になることが良いと思う。民間の病院でも地域移行を少しずつやっていけば、実際にしたくても、動きが取れない所が結構あると思う。「大丈夫ですよ」と少し刺激を与えていくと、もう少し進んでいく。

(寺田副部長)

ピアの人が病棟へ訪問して、地域での説明をすることについて、以前病院訪問事業があったが、ストップしてそのまま終わったという経緯がある。その時のピアの効果を直接見ていて、関心するほど効果的だった。病院の固いガードをピアが少しずつ開けて行った。ピアが病院で説明をしていると、入院をしている方達が遠巻きにしながら、段々話を聞きに来てくれた。是非進めていったらいいと思う。話を聞いて興味を持った人達が、実際にスタッフと外に見学に来るようになる。下地があるので、進めていけるのでは。

(富沢部会長)

地域移行・地域定着協力病院として少しドアが開いて、また新しいバージョンで試みしてみるのには良いと思う。

(國分委員)

家族の立場で言わせていただきますと、地域移行・地域定着の一つの壁になっているものとして、家族がある。君津圏域の会議では、退院される方に対して、家族の了解が得られない、という話であった。そのために、地域で動くことができない。その会議において、家族は確かに難しいが、皆様方がちゃんと、「地域で守りますよ」という形であれば、家族が難しく考えないでできるのでは、と伝えた。課題の中に家族を入れてもらえると有難い。

(酒井委員)

とても良いことで、進めていただきたい。以前経験をしたが、病院に船橋のカフェがくる時、患者はすごく喜んでいたり、退院のノートを見せてくれ、「こういう話を聞いた」と

一生懸命説明をしてくれた。随分効果があるので、是非やってもらいたいと思うのと、他の圏域でもそうだが、なぜか地域移行の数があまり上がっていない。折角初めても中絶が出ている。残念な結果がある。進めてほしい。県から委託を受けて実施とあるが、中心になるのは圏域連携コーディネーターになるか？委託費に入れていくということになるか？

(事務局)

そのように考えている。コーディネーターだけでなく、その事業所の職員や他の事業所の協力もあると思う。そういった費用も工面し、増額出来たら、と考えている。

(酒井委員)

病院も少しずつ門が開いてきた。市川でも、病院から勉強会に呼んでくれている。これまでは、そこまで入っていくのが大変で、まず手紙紙を出して、と言われるが、どこに出したらいいのかわからない。院長あてに出すと、「見てない」「どこに行ったかわからない」と随分苦労した。余談になるが、冬になると予定が狂ったことが多い。インフルエンザが流行すると訪問の予定も変わることが経験上あった。陽気の良い時に行った方がいいのかな、と思う。

(岡田委員)

地域移行・地域定着が個別給付になり、それはそれで悪くないが、あらためて、病院を耕すことが必要と感じた。補助金でやっていた時は、本人や病院の職員などを連れて見学などやってきた。改めてもう一度、病棟に入っていくことが一番いい。患者さんや看護師を耕すのが必要と思う。ある病院に入った時に、何年も入院している人が、病院のデイケアで生活訓練施設を見に行き、印象的なことを言っていた。「退院していれば、今、私、こんな風になってなかった。」と。「まだまだ間に合うよ」と伝えた。改めて、病院を耕すのは大切。是非やった方が良くと思う。

(富沢部会長)

時間も押しているなので、最後に、病院で一番多いのは看護師。多勢委員から何かあれば。

(多勢委員)

看護部長会においても議論があるが、千葉県内は看護師が不足しており、どこの病院も看護師が足りなく、ギリギリでやっている状況。こういった交流会や研修、見学にも人を出したいが、そうすると基準が取れなくなってしまう。院内研修2時間であっても、カウントできない。基準がクリアできなくなってしまうために、外に出せない。勉強会もできない。そういう仕組みになっている。院外の研修は院内の業務に生かすために行

っていることである。そこが改善されれば活発にできる。

(富沢部会長)

ありがとうございます。継続して議論できれば。事務局から連絡等は。

(高品副課長)

課長の挨拶でもあったが、相模原の事件を受け、県から福祉関係施設や病院に対し通知を送っている。いずれも、内容としては、夜間の施設の身回りの強化や日中の不審者に対する注意喚起として防犯対策に万全を期すよう、としている。

(木村潔委員)

通達はとても大切。今回の報道を見ると、いかにも精神障害者が危ないかのような報道になっている。この部会でも積極的に意見表明をしなくてはいけないのでは。報道の在り方。このことについてはコンボが声明を出している。ライシャワー事件の時に全家連の方達が、偏見の強い時代にプラカードを持って練り歩いた。大変な勇気だったと思う。この時点で私たちは何か言わなくてはいけないのではないか。宣言を出していただきたい。

(富沢部会長)

御提案は頭に入れて、次回以降に。ありがとうございました。